

【議事録（概要）】

- 1 会議名等：県立高等学校編成整備に関する懇話会
- 2 委員名：別紙（資料3）
※代理出席 吉元委員（親川委員の代理）
※欠席 山里委員
- 3 日時：令和2年11月26日（木）14:25～15:25
- 4 場所：県庁13階第1会議室

| | |
|------|--|
| 進行 | 開会 |
| 事務局 | 設置要綱の説明 |
| 進行 | 会長（島袋委員）・会長代理者（城間委員）の確認 |
| 島袋会長 | 会長あいさつ |
| 事務局 | 事前配布資料の説明 |
| 島袋会長 | 議事進行 |
| 島袋会長 | 議題1：会議の公開、非公開の決定について（説明） |
| 各委員 | 公開に異議なし |
| 事務局 | 議題2：県立高等学校編成整備の基本方向（案）について（説明） |
| 田端委員 | 学び直しの部分について聞きたい。学び直しの定義について、先ほど中教審の義務教育段階で学習が十分に身につけていない者、中途退学経験者、不登校経験者、特別な支援を必要とする生徒などとあったが、学齢期の子どもたちなので、そのような状況と捉えてよいか。 |
| 事務局 | 学び直しについては、2ページの脚注に説明がある。新学習指導要領総則において「義務教育段階での学習内容の確実な定着を図る」と明記され、工夫の例として、ア．義務教育段階の学習内容の定着を図るための学習機会を設ける、イ．必履修教科・科目の単位数を増加させ十分な習得を図る、ウ．義務教育段階の学習内容の定着を目標とした学校設定科目等を開設し必履修科目の前に履修させる、があげられている。現状として、先ほど定時制の説明もしたが、普通高校、全日制の高校でもそのような取組が行われている状況はある。 |
| 田端委員 | やはり、学園生活を楽しむという部分に関しては、ある一定の生徒数が必要だろうと思う。部活動、友達との関係、学習活動中での集団的な活動も、ある一定数が必要であると思う。P.19表5の中で定時制高校の現状があって、定員充足率がかなり低い学校がある。いわゆる少人数学級であろうと考えられるが、そうすると学力的な学び直しはいいが、学園として学級生活としての部分がかなり危惧されると思う。認識はいいか。 |
| 事務局 | 定時制高校は1学年1学級の学校が多いが、定時制高校の目的である勤労学生とか、学び直し生徒に対する教育という意味では、存在意義があるのではないかと考えている。 |

| | |
|------|--|
| 田端委員 | 市町村教委としては、中学校から高校に進学する子どもたちは様々で、定時制課程に進む子どももいれば、出席状況の芳しくない子もいて、それでも高校で頑張ってもらいたいとの思いで送り出している。その子にあった進路を選択して欲しいことと、進学先で学園生活を楽しんで欲しいとの考え方もあって、学校で進路指導するのに非常に困っている状況がある。ただ、職業課程とか、地区もあると思うが、受け皿をしっかり用意していただけるとありがたい。それでも、やはりある一定の人数は必要ではないかと考える。 |
| | 今後、連携をとっていければと考えている。 |
| 城間委員 | 人材育成の部分として、進路変更があったり、不登校があったり、自分自身、キャリア教育の視点だと思うが、進路を決定していくなかで、先が見えない、高校では何しているんだろう、この先どうなるんだろうといったところがあるのであれば、中高連携も含め、今後考えてほしい。これは県立学校教育課が考えていくことだとは思いますが、その辺も視野に入れて、中高一貫した学校を県が作っていくのであれば、きちんと分析する、先が見通せる、進路先が見通せるよう分析して欲しい。 |
| 城間委員 | 学び直しも含め、共生社会の部分からすると、今後は通級という方向（高校は2つあるが）があれば、今後、そういう形で学校の中で通級する子どもたちを増やすことによって、不登校や進路を変更しないといけない子どもたちを救うことができると思う。その辺が上手くいかず、定時制高校で対応していることが考えられる。特に発達障害の生徒は私立の通信制の学校に通っている生徒も多い。居場所づくりを進めていく点からも、通級指導教室については考えてもらえたらと思う。 |
| 事務局 | 中高一貫校については、開邦中と球陽中の中高一貫があるが、中学校1期生が高校を卒業した後に分析したい。定時制に通っている様々な生徒への対応として、今後議論を重ねながら支援の在り方を進めていきたいと考えている。具体的な事については、県立学校教育課などとも連携しながら考えていきたい。 |
| 吉元委員 | 大学進学率が沖縄は全国と比較して低いと報告があったが、関連して、グローバル化を進めていくには、大学進学率が高い方がいいと思う。国内ではこの状況だが、近隣の外国、韓国などは進学率が高いと聞いている。今後、グローバル化の中で戦って行くには、進学率を上げていくという意識も必要ではないか。諸外国への進学率等、どこか参考になるデータがあればいい。 |
| 事務局 | 大学進学率については、基本的に全国 54.3%から 54.7%と上がっている。沖縄県も上がっているが、進学率を上げるには母数を増やしていかなければならない。沖縄県は離島県なので、県内に在学するのもある程度限られている。上がっていくのは重要だと考えるが、それをどこまで上げるのかとなると、地理的な問題や貧困の話など、課題もある。また、諸外国とかへの進学率等については、様々な状況等を参考にしながら考えていく。 |
| 富里委員 | P.16 の中高一貫に関連して、新聞にも出ていたが、今後の方向性の中で、北部地区への併設型中高一貫教育校を設置とあるが、前任が球陽高校で、もう少しで1期生の結果が出るため期待している。生徒は北部地区からも通っていたので、地域のニーズは高いと感じている。心配しているのは、例えば開邦、球陽のように地域にある程度の人口的キャパがあれば別だが、地区の中学生のトップを抜かれた時に、北部地区の中学校がある意味、地盤沈下しないかが心配ではある。中部地区、那覇地区はそれだけのキャパがある。北部地区では統合している中学校などもあるので、小学校の上位層が県立中に入学してきた時に、逆の意味の化学変化が起こって、作ったのは良いのだが、とまらないか。そのあたりも考えているのか。 |

| | |
|------|--|
| 事務局 | 生徒数は中南部地区の方が多く、北部地区から那覇南部の進学校に毎年40名～50名流れている。受け皿として、県のほうで昨年度、県立中学校を設置した時の影響について懇話会を開催していて、その中でどのような影響があるのかと意見交換をしている。多少の影響の可能性は考えられるが、全体的には、北部に中高一貫校を設置してほしいとの意見であった。その意見も参考にしながら北部地区への設置を進めていきたいと検討しているところである。 |
| 富里委員 | 名護高校もフロンティア科があって、だいぶ上がってきているので、確かに能力の高い子は北部地区にいると思うので、地域のコンセンサスがあれば北部地区での設置もありだと思う。 |
| 宮里委員 | P.17のインクルーシブ教育の推進について。新聞報道でも特別支援の児童生徒の人数が増えているという中で、併設型特別支援学校設置に取り組んでいくとのことだが、障害のある者だけでなく、障害のない子どもたちも相乗効果が期待できると考える。P.19の定時制についてだが、高P連の研修会の発表を聞いているが、大変充実した発表が聞けた。今、人数のほうは少ないが必要性は感じている。 |
| 伊禮委員 | 我々が高校に通っていた時代では考えられないくらい色々な学科があるが、福祉科であったり、環境科であったり、新しい学科を設置する際の基準というか、例えば、その当時の中学生とかがこんな学科があったらいいなとか、意見があったりしたのか、アンケートを取ったりしたのか、何を以て決めているのかというところを教えて欲しい。 |
| 事務局 | 第5期計画の中で、新しい学科として、名護高校にフロンティア科、真和志高校にみらい福祉科を設置した。北部地区における人材育成の観点から大学進学を目指した学科設置ということでフロンティア科を、陽明高校は介護福祉科を総合学科に改編し、真和志高校の介護福祉コースをみらい福祉科に改編した。また、学校側から学科改編の要望、ニーズ等を県立学校教育課に出すこともできるので、そのような方向性でアプローチしていくこともできる。 |
| 伊禮委員 | 将来、職業とか、何か目指した時に、大学に進学した方がいいのか、また、高校卒業して何かしらの職業的な知識なり、技術なりを身につけて高校を出て行くという事を考えて、それで高校を選んでいると考えるが、もし高校でこのような事を教えてくれる学科などがあれば、わざわざ高校を卒業して、本土の専門学校にいかなくてもいいのではないかとこのところもある。現在、非常に選択肢が多いと思うが、逆に沖縄で介護が必要であれば、そのニーズに合っているのかなど。そういった事も見ながら、今までの話に逆行するようで申し訳ないが、必ずしも大学に行く、進学率を上げるだけでなく、子どもたちが何を目標しているのか、目指す目標が与えられているのか、職業意識など、そういったところを、それは小中から継続しての事だと思うが、社会に出て働く事の意義、色んな職業があって、どの職業も尊敬されるべきものであるということも教えていくところが重要なのかなと思う。そういったところが学校設置に繋がっていくと思う。 |
| 事務局 | 小中学校から様々な取組は必要だと思う。キャリア教育で小学校、中学校から将来、どの職業に就きたいか、どういう人になりたいかを考えた上で、高校、大学を選んでいく。編成整備計画では、そういうニーズに応えながら進学に特化したり、学び直しを取り入れたりしながら、今後検討していきたいと考えている。 |
| 島袋会長 | 沖縄県は若年無業者の割合が、全国に比べて相当多い。以前は全国平均の3倍くらい多いという話があったが、若年無業者の大半は、実は大卒と言われている。これはやはり、基本的に小さい頃からのキャリア教育が浸透してない事が大きな原因だと思う。逆に言うと、中学、高校は、私の印象だと、キャリア教育、進路指導については、実質的 |

には進学指導がとても強すぎる。目先の高校、大学に合格すればいいというところがありすぎて、逆に本来、キャリア教育の意義が十分浸透していないと感じられる。もったいないと思う。うまく回していくことができればいいなと思うが、このへんを少し意識してもらいたい。

事務局

次期教育振興基本計画の基本方向の中で検討できればと思う。

伊禮委員

今、会長が発言された進路指導については、やはり私も同じように感じる。進路指導ではなく、進学指導、良い学校、学力の高い学校に行くことが、最終的に幸せに繋がる、という意識が高いという感じはしている。実際、私も中学から高校を決める際に、担任から自分が選んだ学校と違う学校に行きなさいと指導された事がある。断って自分が行きたい学校に行ったが、子どもたちが自発的にきちんと選べるというところを逆に大人が潰していないか、ということも考える必要があると思う。

島袋会長

確認だが、たぶん高校の就職率という場合には、就職希望者が分母になっていると思うが、進学率の分母は何か。卒業生数か。

事務局

そのとおり。

城間委員

進路も多様化している。大学も同様に就職となると難しい。何が課題かというところ、今の社会の中で求められていることは、新学習指導要領にも示されているが、自ら考え、自分は何ができて、何が得意なのか、うまく自己を理解するという部分が弱いのかなと思う。情報化社会ではあるが、我々の場合は図書館等で自分で調べていたものが、スマートフォンで全部済ませるといった状況である。その事を踏まえると情報を精査する力が必要とされている。そこが上手く対応できていない。自分を知った上で、自分を理解した上で、きちんと進路決定していくことを、高校だけではなく、本来は幼児教育から進めていくべきである。キャリア形成は幼児期から始まっているので、高等学校に来てどうするかという事になっている。それこそ産学官の連携が必要となる。自分がこの大学にいきました、今後どうなりますか、という部分、例えば教員としての部分と、一般企業にいった時にどんなふうになるのかという見通しが持てない、そのため途中でやめる子どもたちが多い。仕事に定着させていく時に何が必要かなどを含め、産学官の連携を教育課程にうまく盛り込めるといいかなと思う。もうひとつは地域の活性化についてである。この部分では離島北部は厳しい状況であるが、隣り合った学校同士、連携した取組をやっていくなどの方策があれば、1校1学級だとしても、学びという点では大きい。学校等で工夫をしてみる必要はあると思う。地域に戻ってきて地域を活性化するための人材育成であって欲しいと思う。それに向けた形で実践できたらと思う。

事務局

キャリア教育に関わる話だと思うが、各学校において卒業生の社会人を学校に招いて講話を実施したりしている。地域の学校については、地域と連携してどう学校の魅力化を打ち出していくか考える必要がある。

島袋会長

キャリア教育に関して、小学校段階から高校、大学までキャリア教育というのが言われて、その教育が展開されているが、実を言うと、将来への関心を高めるキャリア教育が中心となっている。要するに先輩や職業人の話を聞くとか、企業訪問するとか、地域訪問するとか、関心を持たせるところに、キャリア教育の力点が置かれている。大事な事は、将来への興味関心、二番目に、生徒が自ら進路の計画を立てる。それを自分で考えて詰めていく。この計画性と自立性が重要だが、実は関心を高めるところに集中している。問題は子どもたち一人一人にどう自分の進路の計画を作ってもらうか、そこまで何か踏み込めていない。教えたけど、関心は高めたけど、結局育たないところがあって、

もったいない。せっかくやるなら一步踏み込んで考えてやっていかないと、やる方も、やられる方も骨折損的などころがある。もったいないと思う。

- 宮里委員 沖縄県の離職率が全国平均よりかなり高いという事で、PTAと連携してやっていきたいと県の方から提案があったが、これもキャリア教育になるのかなと思う。県民性もあると思うが、私としては行政、学校現場だけに任せないで、親の意識も変えないといけないと、連合会も色々と協力していければと考えている。
- 城間委員 インクルーシブのところ、新たな併設型特別支援学校を設置するとある。どちらかというと南部にあって、中部には1校だが、地域は考えているのか。
- 事務局 中部地区に1校、那覇南部地区に3校設置されているが、今後、検討しながら、やはり少ない中部地域のほうを考えていきたい。
- 富里委員 今委員からあった事は、高等学校校長会でも話題になっている。高等学校校長会と言いつつ、特別支援学校の校長先生も一緒に活動しており、特別な支援を必要とする子どもたちが多く、今併設型が何校かありますけど、高校側としても増やす方向で考えていかないといけないのかなと、校長会のほうも教育庁と情報交換しながら考えていきたい。特別支援学校も過密化が厳しいようなので、そういう子どもたちを受け入れて、特別支援を必要とする子どもたちの機能訓練をきちっとできるような方向に進めていかないと、県全体としては良くないかなと校長会としても考えている。
- 田端委員 小学校から中学校に行く場合は校区制があり、決まっているが、中学校から高校に行く時に、学力の部分もあると思うが、その高校の事を知らないとモチベーションが高まらない。部活動で頑張ろうとする子どもたちは一部であるが、どうも中学校から高校があまりよく見えないので、3年になって初めて一生懸命高校の姿を見ようとする。もう少し高校が校内や地域でもこういう事をやっているな、ということがわかれば良いと思う。高校を選ぶ時にはもっとモチベーションを高める子が増えたらいいと思うので、これは一方的にお願いするのではなくて、市町村や中学校の側としても連携をとらないといけないと思う。
- 富里委員 情宣活動など、高校側も頑張りたいと思う。
- 島袋会長 それでは、県立高等学校編成整備の基本方向(案)を、事務局の提案どおり進めてよろしいか。本日の議論内容については事務局で検討及び取りまとめを行い、会長、会長代理と調整の上、「基本方向」への追加・修正等を行い、反映させるということによろしいか。
- 各委員 異議なし
- 事務局 今後の日程については、今後の取組を踏まえて、委員と調整させていただく。次回の日程は、4月以降を予定している。その際、会長、会長代理とも調整させていただく。
- 島袋会長 事務局の提案でよろしいか。
- 各委員 異議なし
- 島袋会長 これで本日の日程は全て終了とする。
閉会